学校だより　7月

令和３年６月２８日　　横浜市立芹が谷南小学校

GIGA 開き　～ 一人一台端末を使った学習がスタート ～

学校長　髙木 篤子

GIGA（Global and Innovation Gateway for All）スクールにおける学びとして、児童生徒に一人一台端末と高速の通信ネットワークを整備し、公正に個別最適化された学びを全国の学校現場に持続的に実現させる構想が進められています。

本校でも、６月に児童一人ひとりが卒業まで使う端末を手にして、「GIGA 開き」を行いました。環境整備や学習準備を重ね、中心となって ICT 活用を推進している３名の教諭から、GIGA 開きの様子やこれからの活用についてお話いたします。

◆ GIGA 開きでの指導のポイントと子どもたちの反応　〔チームリーダー 池田教諭〕

６年１組では、まず全体の場で使い方の約束を確認し、保管庫からの出し入れの仕方、持ち運び方を確認しました。次に個人のユーザーID とパスワードでロイロノートにログインし、一つ一つの操作を確かめながら、文字入力の仕方や写真の撮り方等を学びました。自分の端末に担任からの配信が届くと、子どもたちからは拍手が起こりました。その後は担任が出した課題に答えたり、回答を共有したりして、いろいろな機能を試しました。

どんな時に何を使って学ぶのか。今後、自分から学ぶ学習へと広げ、様々な教科で子どもたち一人ひとりが理解を深めていくために、タブレットの活用を進めていきます。

◆ GIGA 開きまでの苦労や、今後の活用での留意点　〔教務主任　岩井教諭〕

学校にタブレットが３００台以上届き、それを見たときは正直途方にくれましたが、様々な職員が力を合わせて環境整備、ルール作りなどを行う中で、何とかＧＩＧＡ開きを行うことができました。これから、少しずつこのタブレットなどを活用した学習が始まります。子どもたちもそうですが、教職員や保護者にとっても初めてのことです。それぞれの立場で、子どもたちにとって安全で充実した学びとなるよう試行錯誤しながら、学びのツール・新しい文房具として有効に活用していきます。

◆ 一人一台 iPad を使う学習の構想・展開　〔情報視聴覚部　坂田教諭〕

タブレットには、いろいろなアプリが入っています。中でも「ロイロノート・スクール」のアプリはこれからの授業でたくさん使われることが考えられます。ロイロノート・スクールでは、自分の考えをカードに書き出して友達と共有したり、比較したりすることができます。自分が学習した履歴が蓄積されるので、振り返りもしやすいです。また、シンキングツールがたくさん入っているので、様々な授業で自分のアイデアをまとめることもできます。正しい使い方をして学びを深めていきます。

鉛筆とノートに加えてタブレットを使うことで、自分のペースで学んだり、自分の考えを効果的に伝えたりすることが期待されます。個々の学びに加え、協働的な学びのツールとしても活用できますが、対面でのコミュニケーションの大切は変わりません。バランスよく有効に活用し、子どもの学びの可能性を広げていきたいと思います。